

山口佳織の成り立ち

昭和の終わり頃、寅さんが有名な下町の某区に生まれる。
親戚は床屋経営者・文房具屋経営者・スナック経営者・町工場経営者と、就職活動時に、誰に何を相談していいかわからないほど、とにかく経営者に囲まれて育つ。

小さな頃の夢は床屋さん。

実家の跡を継ぐ未来を疑わぬまま進学した高校で、ホームページビルダーとの運命の出会いを果たす。
高校時代はホームページ作りと、教育担当を任されたアルバイトに没頭する。
没頭するうちにITのことをもっと勉強したいという思いに駆られ、親戚に頭を下げてお金を借り、アルバイトで必死に貯めた貯金をはたき、専門学校にて学ぶ権利を手にする。

入学後も学費を捻出するために、友人から「過労死」とあだ名をつけられながら複数のアルバイトを掛け持ちする忙しい日々を送る。
行く先々でなぜかアルバイトの統括役を任せられ、マニュアルの作成と新人教育を頻繁に行うようになる。
その頃から「人に判りやすく仕事を教えるにはどうしたらいいか」を考え始める。
学業もおざなりにはせず、在学中に学科内で最も多く資格を取得したとして学校案内に掲載され、晴れて全国誌デビューを果たす。

卒業後は、大卒しか採用しないと決めていたらしい物流業界の中小零細企業に特例入社。
入社後すぐに課内一の問題部署に配属となり、仕事の愚痴を活き活きとした表情で話す人々が集う無法地帯に放り込まれ、社会の荒波に揉まれることに。
途中、方向性の合わない人達数人から正式な方針を伝えた上での円満なお別れの申し出を受理しつつ、約2年ほどかけてスキルマップとマニュアルを作成し、業務の再振り分けを行う。
結果として、人件費が半減し、見事「一番安心して仕事を任せられる部署」の称号を得る。

日々仕事に没頭していたところ、気が付くと本人の知らないところで役職もないまま部門責任者という肩書きを得るといっておまけがついてきたので、部門責任者らしく部門内の暗黙の了解を会社の方針に沿った形に加工・修正し、正式なルールとして決める仕事を行う。
この頃から会社から求められる、あるべき姿というものを強く意識するようになる。

また、中小零細企業にとってITを学んだ人材の入社は珍しいらしく、入社2年目にして異例の単独研修を新入社員に向けて行うことに。
入社時代に知りたかったことを思い出し、専門的な部分は極力除き、実際に身近で運用する場面を考えて案をひねり出すことに成功。その結果、「もっと早くにこういうことが知りたかった。何で入社してすぐに教えてくれなかったのか」と新入社員から怒られる、悲しい先輩社員となる。

その後も常に3足以上のわらじを履き続け、頼まれごとを快諾し手を広げ続けた結果、最終的には「システム 兼 新卒採用担当 兼 新規事業担当 兼 全国規模のキャンペーン担当 兼 新入社員のセキュリティ教育担当 兼 発送管理担当 兼 データ加工担当及び部門責任者」となる。

効率化を進めて実務が手から離れすぎたため、暇を上司に自己申告したところ、救世主と言わんばかりに満面の笑みで異動の指示が下る。
異動先では大規模なシステム改修に社内の窓口として携わることになり、開発元のIT企業からの改善案に対し、なぜか逆にムダを指摘するはめになり、日々システム会社と戦うことに。

ここで実態にそぐわないIT企業の提案と、提案の是非を判断できる人材がいない中小零細企業の実態に気が付き、独立に至る。